



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 245
August
2013

トピックス

人材育成

「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政コース」の実施

関係機関との防災協力推進

「アフリカの角」における災害復興計画ワークショップの開催

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2013

●人材育成

「中央アジア・コーカサス地域総合防災行政コース」の実施

アジア防災センター（ADRC）は、国際協力機構（JICA）と協力し、中央アジア・コーカサス地域の防災担当行政官を対象とした研修を2013年6月24日から8月3日まで実施しました。中央アジア地域のカザフスタン、キルギス、タジキスタン、及びコーカサス地域のアルメニア、アゼルバイジャンの計5カ国から、中央または地方政府の防災担当行政官計13名が参加し、ロシア語による研修が行われました。

本研修は、防災行政に関する基礎的な内容について、日本の防災の知識や経験、蓄積してきた技術を提供するとともに、研修参加者がそれぞれの国において兵庫行動枠組（HFA）の5つの優先行動に基づいた自国の現状と課題を分析し、より良い防災体制を構築するための改善案を策定することを目的としています。研修員は、中央政府・地方自治体・防災拠点・ライフライン・研究機関・予報機関・メディア・国連機関・民間企業・NPO・国際協力機関などから広範囲にわたる講義を受け、防災について学びました。また、住民参加型ハザードマップ作成のための「タウンウォッチング」プログラムや、四国での砂防ダムの見学などの活動も行いました。

中央アジア・コーカサス地域では、洪水、干ばつ、地滑り、地震といった災害が多く発生し、複数の国に被害が及ぶことも稀ではありません。また、冬季は積雪も多く、雪解け時期に山岳氷河が洪水を発生させることもあり、これらの国々は共通の防災課題を抱えています。帰国後、彼らが研修で学んだ知識、技術、手法を様々なプロジェクトに実践し、自国のより良い防災体制を構築していくことが期待されます。さらに、研修期間内に深めた研修員間のネットワークを、地域内の防災連携に生かしていくことも極めて重要です。なお、当研修実施にあたり、訪問等を受入れいただきました各関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



内閣府での講義の様子

●関係機関との防災協力推進

「アフリカの角」における災害復興計画ワークショップの開催

政府間開発機構（IGAD）の協力を得て、国際復興支援プラットフォーム（IRP）及びADRCは、エチオピアのビシトウフにおいてエチオピア政府職員を対象に（2013年7月29～30日）、またアディスアベバにおいてソマリア政府職員を対象に（2013年8月1～3日）災害復興計画ワークショップを連続して開催しました。このワークショップは、欧州委員会（EC）のファンドにより、IRPを通じて国連国際防災戦略事務局（UNISDR）が実施している「地域に於ける災害復興計画作成能力強化」プロジェクトの一環

続き

として、アフリカの角地域で予定されている3つのワークショップの内の2つのワークショップであり、3つ目のワークショップは2013年9月25～27日に南スーダンで開催されることとなっています。これらのワークショップの目的は、地域において復興専門家を養成し、またIGADにおける予備能力を構築することであり、この目的を達成することにより、災害復興計画作成に係る技術的支援を望む地域の全ての国が支援を受けることが可能となります。

エチオピアからは25名、ソマリアからは20名の政府職員がそれぞれのワークショップに参加しました。各参加者は災害危機管理及び長期復興に係る知識・経験を持つ、様々な省庁出身の高官であり、さらに、当ワークショップが当該地域特有の知識、域内の経験や国際的な専門知識を提供できるものとするため、国連開発計画（UNDP）、国際労働機関（ILO）、世界保健機関（WHO）、JICA及びアフリカ災害危機管理センター（ACDRM）といった国際機関からの代表も参加しました。ワークショップの開催地となったエチオピアからは、アト・ミティク・カッサ防災担当大臣に両ワークショップの開会に参加いただき、またサイド・ユスフ・ノア在エチオピア・ソマリア大使／アフリカ連合常駐代表がソマリア政府職員対象ワークショップの初日に参加いただきました。

ワークショップでは、復興計画作成の様々な面について議論されましたが、特に長期の干ばつや大洪水後の復興過程の中で予想される課題に対応するための、「よりよい復興」の手法、戦略について深く検討が行われました。IRP/ADRCは主にファシリテーターの役割を担い、WHO、ILO、UNDPのパートナー機関の参加者からは、地域におけるそれぞれの活動に基づく専門知識や経験を提供いただきました。議論の中から、まず第一に、地域における災害対応について、「危機管理」から「リスク管理」へと災害対応にパラダイムシフトが起こっているということ、第二に、政府が率先している災害リスク管理活動は兵庫行動枠組（HFA）に沿ったものであるということ、最後に、エチオピア政府のDRMプログラムや投資枠組（DRM-SPIF）のように、政府が災害復興計画を災害リスク管理や持続可能な開発に統合しようという動きがあるということが明らかになりました。IRP/ADRCが世界中の様々な経験から取りまとめた復興の教訓が、既存の政府の活動にさらに加わって、干ばつ及び洪水の復興計画に対して統合的な戦略提言を行ったことが、ワークショップの大きな成果となりました。

今後の方向性として、次のようなステップが確認されました。まず第一に、今回のワークショップ参加者全員が、IRPが保有する専門家リストに加わり、またアフリカの角においてはIGADが、災害復興計画作成に関して予備能力を有する地域機関として当該リストを管理すること。これにより、研修を受けた専門家はIRP及びIGAD事務局から最新情報を継続的に受けることができるようになります。第二に、地域における事例や経験を文書化し、メンバー国間で、またIRP及びADRCを通して世界中で共有すること。最後に、研修を受けた専門家はワークショップで得た知識を、他の省庁の職員と共有することが期待されています。

この件についてのお問い合わせは、IRPの河内（kouchi@recoveryplatform.org）までお願いします。



エチオピアからの参加者



ソマリアからの参加者

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。